

## 御園生 拓：富士山は雲の中だったけれど

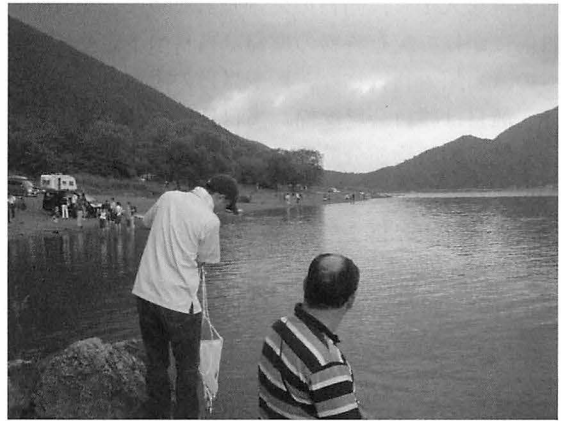
“Mt. Fuji - Lake Saiko Tour” は、おかげさまでたいしたトラブルもなく、まずまず好評のうちに終えることができました。

<マリモを展示しよう>

IPC9事務局からエクスカージョンを一つまかされて、さてどうしようかとちょっと悩みましたが、ちょうど、山梨大と山梨県の共同研究で山中湖において山梨県天然記念物に指定されているマリモ：*Aegagropila linnaei*（フジマリモとされていたが、遺伝子レベルでマリモと同一であることが示された）が50年ぶりに再発見されたところから、富士五湖のマリモを知ってもらいたいチャンスだということもあり、まあ富士山と富士五湖ならば受けるだろうと企画を立ててみたわけです。せっかくなのでマリモも見てもらおうというわけで、かなり大きな群落があることがわかっている西湖のマリモを採取・展示しようと考え、早くから関係各所に話を始めました。展示場所として山梨県環境科学研究所を選び、準備を整えていたのですが、けっきょく採集が間に合わず、8月5日当日には小さな個体を用意することしかできませんでしたので、大人数のみなさんがちゃんと見る事ができたかどうか……。その後の再度の採集により、現在は十分な量が展示されています。

<富士山五合目は大混雑>

エクスカージョンについては、当初の参加希望が144名 (!) ということで、さすがに日本のシンボル富士山は人気があると感心した一方で、こんなに大人数でいったいどうなるのだろうと不安に駆られもしました。でも、有能なJTBスタッフとの打ち合わせで具体的にいろいろ形ができてきて、まあなんとかなるかという気になりました。けっきょくバス4台を、2台ずつのグループに分け、富士山5合目の後で山梨県環境科学研究所と西湖を入れ替えるという案で行くことにしました。IPC9が始まるとさらに参加希望者が増えていき、許容量を超えるかとも思われましたが、当日曇り空の明け方に集まった参加者は161名で、まあたいへんな人数で出発です。4台のバスにはそれぞれ英語専門のガイドさんとJTBスタッフがついて、いろいろ小物を使った至れり尽くせりの説明には感心しました。バスは中央高速を河口湖に向けて順調に走ったのですが、とにかくどんより曇り空で、期待もむなしく富士山は姿を見せません。高速終点河口湖ICの直前に雲の切れ間から一瞬山肌が顔を覗かせたのですが、それに気がついたのはずっと山の方を伺っていたわたしとガイドさんくらいだったかも。富士吉田口から富士山五合目に上るスパルラインにはそれほど車がいなかったのに、五合目は自家用車や大型バスで大混雑でした。ちょうどこの日は河口湖湖上祭の花火大会が予定されていたので、花火目当ての観光客も相当集まっていたのでしょうか。昼食までの2時間ほどの自由散策で、多くの方が六合目まで登ったようです。いずれにしても上も下も雲・雲・雲。ときおり垣間見える森のたたずまいが海拔2,305mを感じさせましたが、五合目広場や登山道はとにかくたいへんな人・人・人で、まるで新宿地下街なみでし



西湖湖畔でのツアーの様子

た。五合目レストランでの昼食は典型的な今どきの日本のお弁当で、(とても山の上だという感じではなかったけれど)山梨名産トウモロコシもついてそれなりにおいしくいただきました。

<西湖湖畔は“自由”散策>

午後はバス2台ずつのグループに分かれて、県環境研でマリモ展示等を見て富士山紹介のミニレクチャーを受けてから、ネイチャートレイルを歩いて環境省生物多様性センターへというコースと、西湖の湖畔での散策・採水コースに向かいました。わたしは国立環境研の出村さんと西湖に張り付きで、プランクトンネットを曳いたりマリモ群落のあるあたりを示したりと、それなりに意気込んでいたのですが、ほとんどのみなさんは湖畔を歩いたりどんどん水に入っていったりと、それぞれ勝手に動いてくれたので、ほとんどまったく面倒はありませんでした。

帰りのバスは自然渋滞+事故渋滞に巻き込まれて予定よりも1時間ほど遅くなりましたが、参加されたみなさんは(富士山は見えなかったけれど)まあ満足されたのではないかと思います。山梨県環境研並びにJTBスタッフとガイドさんたちに感謝します。

(山梨大学・大学院医学工学総合研究部)